

第81回 未来医療セミナー

(第8回医学科国際交流セミナー)

2014.10/23

18:00-19:30

大阪大学吹田キャンパス
最先端医療イノベーションセンター
1F マルチメディアホール

“地球規模健康課題(グローバル・ヘルス)の アーキテクチャーと潮流”

-日本の医療・医療産業が参加できる組織環境とファイナンス-

中谷 比呂樹

世界保健機関(WHO)事務局長補
(エイズ・結核・マラリア・熱帯病担当)

国際保健は大きな変貌を遂げている。21世紀の最初の15年で、三大感染症と小児保健(ワクチン)に特化した財政支援組織を通して、体系的かつ大規模なODAが投下されたこともあり、世界の健康水準は大幅に改善した。これに伴い、多くの国々が貧困と不健康の悪循環を脱し、低所得国から中所得国となり、疾病や年齢構造はさらに変わりつつある。我が国が昭和30年代から40年代の高度成長期に経験した状況が起きているのであり、国際保健をODAを使った低所得国支援に矮小化して考えることは全く当を得ない世界となっている。高所得国の官が低所得国の官を支援するという「国際」保健という言葉に代わって、官民の資金を市民社会や産業界の参加による相乗効果を得ながら健康投資するという「グローバル・ヘルス」という概念が出てきた由縁である。同時に、エボラ出血熱のアウトブレイクに象徴される地球規模の健康危機管理の必要性も繋がりあう世界では緊急の課題となっている。日本の有する医療・医療プロダクトが貢献できる機会と仕組みがどのようなものか、WHOの機能に言及しながら、ダイナミックに展開をするグローバル・ヘルスの「イマ」を説明する。

主催：未来医療交流会
共催：医学科国際交流センター
後援：大阪大学大学院医学系研究科
文部科学省橋渡し研究加速ネットワークプログラム
大阪大学「IR実践のための戦略的高機能拠点整備」
厚生労働省早期・探索的臨床試験拠点整備事業
大阪大学医学部附属病院未来医療センター
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

お問い合わせ：
大阪大学医学部附属病院未来医療センター
ctr.osakauniv@dm.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp>